

# 学校関係者評価書

平成25年度 第2回

南アルプス市立白根百田小学校

## 第2回 学校関係者評価委員会

- 1 実施日 平成26年1月16日(木) 午後4時00分～6時00分
- 2 会場 白根百田小学校校長室
- 3 参加者 学校関係者評価委員  
小野 俊文(教育振興会会長) 小野 俊彦(教育振興会副会長)  
中澤 君雄(教育振興会副会長) 小池 正彦(教育関係有識者)  
中澤 幸雄(百々育成会会長) 内藤ふじ子(主任児童委員)  
土屋 純生(保護者代表・PTA副会長) (学校関係者評価委員長)  
村松真由美(保護者代表・PTA副会長)  
学校職員  
石川 正人(校長) 雨宮 義仁(教頭)  
河村 徳仁(生徒指導主任)

## 4 学校から提案された内容

- (1) 学校の自己評価について説明
  - 教職員による自己評価(教頭)
  - 児童アンケート(生徒指導主任)
  - 保護者アンケート(教頭)
  - 平成25年度後半の具体的な取り組みについて(校長)

## 5 協議されたおもな内容

- (1) 教職員による評価、児童アンケート、保護者アンケートについての考察とアドバイス

## 学校関係者評価

教職員による自己評価、児童アンケート、保護者アンケート、さらに教職員からの学校の様子の説明や、校長だよりで紹介された「平成25年度後半の具体的な取り組みについて」を題材に、白根百田小学校並びに百田地区のよりよい教育活動をテーマに座談会を行った。以下は、その時に話された内容の概要である。

### 教職員による自己評価について

○あいかわらず「教科等の指導について」の自己評価が低い傾向にある。先生が自分の授業について厳しくとらえていると共に、一番大切な授業に十分力を割き切れていないジレンマを感じていることが見て取れる。

○「従来の固定的な考えにとらわれない指導法の工夫をしていきたい」に関わって

自分の子どものことを考えても、先生が作った教材は有効であり、子どもに印象が強い。基礎的な学習の時に楽しさや幅広い発想があるとよい。そんな意味でも先生方のオリジナリティーを大切にしたい。しかしながら、学び合いの授業にはどうしても時間がかかる傾向にあり、時間的な余裕の問題や様々な方面からの「しぼり」も多く、十分に活動しにくい面もあろう。主旨を生かしながら、メリハリをつけた授業計画を工夫して欲しい。

### 児童アンケートについて

○朝学習については、開始時刻も含め児童だけでは自主的に始められない傾向にあるようだ。教師が前もって何らかの手立てをしておくことが必要である。

○「授業中質問をする」「考えたことを発表する」についての評価が低い傾向にあるが、これには担任の姿勢や取り組みが大きく影響する。自分のクラスについて、児童アンケートの評価が低かった項目については、それぞれの担任が各自分析と考察を行って欲しい。

○家庭の協力が得られないといった状況もあるだろう。保護者も生活でいっぱいな人も多く、教師のフォローが必要なことも多い。家庭の課題を抱えている児童も多く、先生は家庭の状況を把握しながら個々に対応しているとのことで、ここでも教師の負担増が伺える。

### 保護者アンケートについて

○学校教育についての「先生は基礎基本の徹底や学習のつまづきなどに積極的に取り組んでいる」、子どもの様子についての「子どもは学習がわかり基礎学力が身につけている」のポイントが上昇していることを高く評価したい

○保護者自身については「子どものしつけや基本的生活習慣に注意を払っている」についてのポイントが大幅に上昇し、学校からの啓発活動や学年PTAの取り組みが功を奏し、保護者の意識が大きく向上していることについても高く評価したい。

○ただし、父親が仕事を失った家庭や母子家庭でがんばっている家庭、母親が仕事をされていて疲れて十分面倒を見て上げきれない家庭など、厳しい家庭の状況がある。反面、状況はそれほど悪くないのに教育に関心がない家庭が多々見られるのも事実である。

○基本的生活習慣に関して、家庭では「ゲーム」の存在が大きな課題である。親自身がゲームに夢中になっているケースも多く「時間を守る」「規則正しい生活」などに大きな影響が出ている。親はちょうどファミコン世代で、その当時はテレビ接続だったので親がある程度チェックできたが、今はそれも難しい。保護者がチームで取り組みをする、みんなで一斉にルールを決めるなどの、保護者自身の組織的

な工夫が必要である。また、ゲーム以外のことに楽しさを見つけることも大切で、この点について大人のアドバイスも必要である。（例：紙飛行機選手権なども有効だった。）

○保護者自身の文化やモラルのレベルを上げることで、よりよい児童の教育に携わることが出来る。本校の保護者の意識が高まっているので、よりいっそうの尽力を期待したい。

○保護者と学校の先生が仲良くなることが大切である。本校では、気軽に話し合える雰囲気が作られてきているので、とてもよい。保護者は「本音を出せる場所」があると安心する。親が安定してくると子どもは良くなってくるはずである。

### すべてに関わって

○職員室の中で、先生方が開放されていることが大切である。本校では、それが十分実現されているものとする。

○音楽発表会は、自分の子どもだけでなく、全部の学年を聞いていく保護者が増えていて、保護者の楽しみであるのと共に、教育に関する啓発の場として大きな役割を果たしている。

○体罰が話題になっている。当然体罰は行わないにしろ、先生方には、自信を失うことなく活躍してほしい。

○学校関係者評価委員会で学校の様子を知るにつれ、先生方の子どもたちへの教育の熱意を感じる。親へのアプローチもますます必要となってくる中で、ぜひ健康には気をつけて活躍されたい。

評価書作成責任者

学校関係者評価委員会委員長（PTA会長） 土屋 純生

学校関係者評価委員会

委員長 土屋 純生 様

※ 学校関係者評価書（案） 在中

日頃のPTA活動へのご尽力に感謝申し上げます。また、過日は評価委員会への出席ありがとうございました。「学校関係者評価書」の案を作成しました。評価委員の皆さんの想いを伝えるものになっていると思います。委員長としてのご承認をお願いします。（電話あるいは子どもさんの連絡帳等でお知らせください。）お手数をおかけいたしますが、よろしく申し上げます。